授業科目	日本の歴史と文化地理Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	清水　順子						
授業概要	『日本の歴史と文化地理Ⅱ』では、「日本の歴史と文化地理を踏まえて考える」「考えを発信する」能力の養成を目的に、価値観や常識という視点から「多様性」をキーワードに日本の文化・社会の問題を再考・再認識していく。授業は学生によるプレゼンテーションを軸とし、担当教員・他の学生と共に社会文化的事象について深く考えていく。各学生は社会文化的事象を自分なりの視点と思索を通したプレゼンテーションを行い、他の学生はそれに対するコメント記述を行う。さらに、この発表・コメント体験を通して「発信力」を養う。						
授業形態	講義			授業方法	プレゼンテーション・ディスカッション GoogleClassroom を活用し、資料等の共有を行う。		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．日本の社会文化的事象を、価値観や常識・多様性との関わりの中で理解・考察し、それを説明することができる。 2．各自の関心に基づいて選定した社会文化的事象についてパワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。 3．日本の社会文化的事象について様々な立場から多様で深い見方ができる。
理想的レベル	日本の歴史・文化地理についての豊富な知識を背景に、必要に応じて、他国地域の歴史・文化地理との対照を行うことができる。自らの考えを持ち、他者と共有していくことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	30%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%	
レポート外の提出物	30%	
その他	10%	授業への参加度、提出物

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN21308J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習：該当部分の予習を行う。 復習：発表やフィードバックをまとめ、文献資料をさらに調査し、発表の振り返りを行う。	4

授業計画

第 1 回	コースガイダンスと導入 コースの目的、構成の説明を行う。
第 2 回	日本の歴史・文化地理と多様性の概説 「多様性」について講師による解説とブレーンストーミングを行う。
第 3 回	トピック 1 「日本史の時代区分」

	上代 中世 近世 現代
第 4 回	トピック２「日本社会の価値観」 多様性 グローバル ローカル
第 5 回	トピック３「日本における歴史認識」 歴史解釈 教科書問題
第 6 回	トピック４「〇〇人の定義」 東洋人 西洋人 人種
第 7 回	トピック５「日本における宗教観」 仏教 神道 神仏混合
第 8 回	トピック６「沖縄の地理と国際的立場」 島国の特徴 土着の文化・習俗
第 9 回	トピック７「ナショナリズム」 ナショナリズム グローバリズム
第 10 回	トピック８「ステレオタイプ」 偏見 多様性
第 11 回	トピック９「現代史からみる価値観」 価値観を生み出す歴史
第 12 回	トピック 10「日本における多言語主義と複言語主義」 多言語主義 複言語主義 多文化共生社会
第 13 回	トピック 11「伝統文化の革新と融合」 伝統文化と継承
第 14 回	「日本の歴史と文化地理」における「多様性」についての解説とレポート作成指示
第 15 回	総括
テキスト	教科書は使用しない。 授業中に資料を配布する。

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜授業中に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物はコメントを付けて返却します。
学生へのメッセージ・コメント	・日本の歴史・地理に関する基本的知識を習得していること（「日本の歴史と文化地理 1」で扱われている事項について把握していることが望ましい） ・高校での歴史・地理授業での文化の扱いとは異なり，この授業は日本の社会文化的事象を生成する土壌として歴史・地理・文化を捉えています。日本の社会文化的事象を客観的・主観的に考察し自ら問い直し、その上で、自分自身の思考・感情を通した価値観(世界の見方)の構築を期待しています。